修士論文要旨
2011 年 1 月

先天性心疾患の子どもを持つ母親の障害受容の研究

指導　橋本泰子教授

心理学研究科
臨床心理学専攻
209J4008
桜井絢奈

目次

Ⅰ. はじめに 3

Ⅱ. 先行研究 4
1．現代社会における女性のライフスタイル多様化 4
2．女性における妊娠・出産・子育て 4
1）妊娠 4
2）出産 5
3）子育て 5
3．子どもの障害受容について 7
1）障害児を持つということ 7
2）子どもの障害受容 8
4．さまざまな障害における障害受容について 9
1）精神薄弱児の親の障害受容 9
2）ダウン症児の対する母親の受容過程 9
3）軽度発達障害児を持つ母親の障害受容過程と学校における心理的支援 10
4）高機能自閉症の子を持つ母親の障害受容過程に関する研究－知的障害を伴う自閉症との比較検討－ 10
5）就学前期における自閉症児の母親の障害受容過程 11
6）LD 等の発達障害のある高校生を持つ保護者の心配 11
7）ADHD と診断された児を持つ母親のストレスに関する考察 11
5．先天性心疾患について 12
1）先天性心疾患とは 12
2）先天性心疾患の種類 13
3）先天性心疾患の現状 14
4）先天性心疾患に関する研究 14
5）先天性心疾患児者が受けられる医療補助 15
6）先天性心疾患児者が受けられる福祉・年金制度 16
6．先行研究のまとめ 17

Ⅲ．目的 17

Ⅳ．対象と手続き 18
1．対象者 18
2．手続き 18
3．実施内容（質問紙） 19
1）障害受容に関する質問紙 19
2）文章完成法テスト（SCT） 20
4．分析方法 21
1）障害受容尺度 21

２）社会的資源（ソーシャルサポート）、障害を受容する上で支えとなったもの（心的支え） 21
３）文章完成法テスト（SCT） 21

Ⅴ．結果 22
１．障害受容尺度の検討 22
１）基礎データのおける群わけ 24
２）社会的資源（ソーシャルサポート）の利用数における群わけ 26
２．社会的資源（ソーシャルサポート）、心的支えにおいての検討 26
１）障害を受容するために活用している社会的資源（ソーシャルサポート） 26
２）心的支え 27
３）障害受容と社会的資源（ソーシャルサポート）、心的支えの関連 28
３．文章完成法テスト（SCT） 30

Ⅵ．考察 36
１．障害受容について 36
２．社会的資源（ソーシャルサポート）について 36
３．心的支えについて 37
４．障害受容、社会的資源（ソーシャルサポート）、心的支えの関連性について 37
５．障害受容得点の高群低群別における文章完成法（SCT） 38
１）家族関係について 38
２）自分自身について 39
３）障害・病気について 40
４）人生・社会について 41

Ⅶ．総合考察 42
１．先天性心疾患児を持つ母親の障害受容について 42
２．先天性心疾患児を持つことが母親に与える影響 43
３．家族関係 43
４．先天性心疾患を持つ母親の社会性・社交性 44

Ⅷ．今後の課題 44

Ⅸ．謝辞 45

Ⅹ．引用・参考文献 46

Ⅺ．資料 49

現代社会における女性のライフスタイルは多様化してきているが、女性の特徴である出産・育児による母親に対する影響は自然なことである。しかし、実際に持った子どもが病児・障害児であった場合には、大きな変化と影響が母親に及ぶことになると考えられる。中田（2005）は、母親が子どもの障害を受容する過程において、「ショック・混乱と否認・負の感情の持続・適応・価値観の変化」という 5 つの段階を経験するとしている。また、阿南と山口（2007）は、親が子どもの障害を受容する過程には、子どもの障害の内容や社会的要因などの様々な因子が複雑に絡み合っているため、障害別に研究をしていくことが必要であると述べている。そこで、本研究では、多くの先天性疾患の中で、近年、診断法、内科的・外科的治療法が急速に進歩している先天性心疾患に焦点を当てて研究を行った。先天性心疾患児を持つ母親の特性や、病児の特性などが障害受容に影響しているのかを、障害受容を量的に捉えることで比較することを試みた。また、母親が障害を受容するにあたってどんな社会的資源を利用していて、どんなもの支えにして困難に立ち向かっているのかを調査する。そして、子どもの障害を受容することが母親にどんな影響を及ぼすのかを、自由記述にてみていく。

調査対象者・手続きは、全国の先天性心疾患児の保護者団体に調査依頼をして許可を得た上で各支部の名簿をお借りし、事務局を通じて質問紙を送付した。発送総数 500 通（人）のうち返送数は 208 通（人）で回収率は 41.6%であった。また、調査協力の同意については、無記名で回答は自由であることを提示した上で、返送を持って調査協力に同意して頂けたものとした。調査は 2009 年 10 月に行った。調査内容は、母親の年齢、子どもの年齢などの基本属性に加えて、障害受容に関する質問紙（石本、太井,2008 を参考にして研究者が作成）と文章構成法テスト（SCT）を行った。分析は、Microsoft Office Excel 2007、SPSS（version18）、JavaScript-STAR version 5.5.3j を用いて統計解析を行った。

まず、母親の特性や子供の特性などの要因別においては障害受容の程度には有意な差は認められなかったが、社会的資源の利用数の多い少ないでは、有意な差が認められた。また、母親が子供の障害を受容するにあたって、より利用している資源は、家族や親の会など、自分の身近な人や自分と同じ境遇の人達に助けてもらいながら、そして、その人達の存在を支えにして、障害という困難に立ち向かっていることが分かった。自由記述からは、障害受容の程度が高いほど、障害や病気に対して「学びを得た」などのポジティブな気持ちを抱くようになることが明らかになった。そして、母親が障害を受容していく過程において、夫婦関係や家族関係の良し悪しが大きく影響していることが分かった。そのため、母親が障害を受容していくにあたり、家族、特に父親（夫）の態度や振る舞いが母親に影響を与えることが分かった。そして母親は病児・障害児を持って障害を受容していくと、死を身近に感じる経験をするため命を大切にしようという気持ちや、どんな小さなことに対しても幸せを感じるという気持など、全体的な思考もポジティブになる傾向があることが明らかになった。よって母親は、病児を持つことで新しい価値観を持つようになり、それを自分の成長として認識するようになるのだと考えられる。

以上のことから、障害や病気の子どもを持つことは、母親が新しい出会いをする転機となったり病児や障害児と生活をすることで時間の大切さや命の大切さを考える機会になったりすると考えられる。また、母親が障害を受容するにあたって家族関係の良し悪しが影響してくることから、これからは母親だけではなく、父親や病児・障害児の兄弟についても研究していく必要があるだろう。

参考・引用文献（抜粋）

１．阿南あゆみ、山口雅子「我が子の障害受容過程に影響をおよぼす要因の検討-文献的考察-」『産業医科大学雑誌』第 29 巻、第 2 号、pp.183-195、2007 年

２．石澤瞭「成人先天性心疾患（特集　小児から成人へのキャリーオーバー）」『小児科』第 47 巻、第 10 号、pp.1437-1446、2006 年

３．石本雄真、太井裕子「障害児をもつ母親の障害受容に関連する要因の検討-母親からの認知、母親の経験を中心として-」『神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要』第 1 巻、第 2 号、pp.29-35、2008 年

４．梶谷喬、寺田喜平『医療保育－ぜひ知っておきたい小児科知識』株式会社加藤文明社、2007 年

５．小島未生、田中真理「障害児の父親の育児行為に対する母親の認識と育児感情に関する調査研究」『特殊教育学研究』第 44 巻、第 5 号、pp.291 - 299、2007 年

６．Lee G. Miller” Toward a greater understanding of the parents of the mentally retarded child.” The Journal of Pediatrics,Vol.73,pp.699-705,1968.

７．中澤誠『先天性心疾患　新目でみる循環器病シリーズ 13』株式会社メジカルビュー社、pp.12 - 51、2009 年

８．中田洋二郎『子どもの障害をどう受容するか』大月書店、pp.30 - 95、2005 年

９．夏堀摂「就学前期における自閉症児の母親の障害受容過程」『特殊教育学研究』第 39 巻、第 3 号、pp.11-22、2001 年

10．仁尾かおり、藤原千惠子「先天性心疾患を持つ思春期の子どもの母親の思いと配慮」『日本小児看護学会誌』第 13 巻、第 2 号、pp.26-32、2004 年

11．西村あをい、稲葉裕、小林八代枝「先天性疾患児と後天性疾患児の母親の育児ストレスの分析」『順天堂大学医療看護学部　医療看護研究』第 4 巻、第 1 号、pp.29-33、2008 年

12. 日本女性心身医学会『TEXT BOOK　女性心身医学』永井書店、pp.42 - 47. 273 - 288、2006

13. 丹羽公一郎、中澤誠『成人先天性心疾患　新目で見るシリーズ 14』マジカルビュー社、pp.12-24、2005 年

14．野辺明子、加部一彦、横尾京子『障害を持つ子を産むということ』中央法規出版株式会社、pp.162 - 171.220 - 293、2010 年

15. 岡本五十雄『ゆらぐこころ　日本人の障害と疾病の受容・克服』医歯薬出版株式会社、2004 年

16. 岡本裕子、松下美知子『新　女性のためのライフサイクル心理学』福村出版株式会社、2004 年

17．Rengin Z,Dilber Y” A comparison of acceptance and hopelessness levels of disabied preschool children’ smothers,” Procedia Social and Behavioral Sciences, No.2, pp1457-1461, 2010.

18．鑪幹八郎「精神薄弱児の親の子供受容に関する分析的研究」『京都大学教育学部紀要』第 9 巻、pp.145 - 172、1963 年

19．八木原俊克「先天性心疾患の外科治療と患者管理（特集先天性心疾患の最新の治療とケアのポイント）」『小児看護』第 26 巻、第 10 号、pp.1363-1368、2003 年